

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

名鉄クリーニング ボイラ設備ガス化事業

排出削減事業者名：株式会社名鉄クリーニング

排出削減事業共同実施者名：三菱UFJリース株式会社

その他関連事業者名：

申請日： 2016年 12月7日

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 名鉄クリーニング
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	株式会社 名鉄クリーニング 本社工場
住所	名古屋市西区貴生町3 1 2 番地
排出削減事業共同実施者 (国内クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名	三菱 UFJ リース株式会社

その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

名鉄クリーニング ボイラ設備ガス化事業

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、クリーニング業務設備機器等の熱源となっている A 重油焚きボイラ設備を高効率ガス焚きボイラに更新し、省エネルギー化を図るものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油焚きボイラ設備を高効率ガス焚きボイラに更新し、エネルギー消費量を削減するとともに CO2 排出量を削減する。

(新規ガス焚きボイラ 2t を 4 台導入し、前稼働中の A 重油焚きボイラ 6t を予備機として前予備機 4.8t を撤去する)

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2008年 12月 16日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2014年 10月 1日 ～ 2016年 9月 30日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては活動量・原単位は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、本社工場のクリーニング工程に供給する蒸気熱源施設である。対象施設については、「排出削減事業計画 2. 5 排出削減事業に関わる設備」に示す。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更 理由
Ffuel,pj M-1	都市ガス使用量	Nm3	1,604,787	ガス供給会社の使用量データ 1,702,549 Nm3 を 16.64℃標準換算	
HVfuel,pj M-2	都市ガスの単位発熱量	GJ/Nm3	0.0464	デフォルト値 (平成 26 年度)	
ε BM M-3	更新前のボイラ効率	%	70.0% (高位発熱量)	カタログ値より算定	
ε PJ M-4	更新後のボイラ効率	%	86.4% (高位発熱量)	カタログ値より算定	
CFfuel,BL M-5	A 重油単位発熱量当たりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0193	デフォルト値 (平成 26 年度) 0.0708t-CO2/GJ *12/44 =0.0193 t-C/GJ	
CFfuel,pj M-6	都市ガス単位発熱量当たりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0141	デフォルト値 (平成 26 年度) 0.0517t-CO2/GJ*12/44 =0.0141t-C/GJ	
M-7	A 重油燃料使用量	L	0	実測計測値 (ボイラー日報)	

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
1,604,787 Nm ³	0.0464GJ/Nm ³	0.0141t-C/GJ	3,849.7 t-CO ₂
EM _{PJ}			3,849.7 t-CO ₂

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2,362.7 kL	38.9GJ/kl	0.0193t-C/GJ	6,504.0 t-CO ₂
EM _{BL}			6,504.0 t-CO ₂

6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
			0t-CO ₂
LE			0t-CO ₂

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	EM _{BL}	6,504.0t-CO ₂
事業実施後排出量	(7.1)	EM _{PJ}	3,849.7t-CO ₂
リークージ排出量	(7.3)	LE	0t-CO ₂
温室効果ガス排出削減量		ER	2,654t-CO ₂

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン - 実績 ①-②
2,371.2	1,921.1	450.1

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。 省エネルギー量 kl = 2371.2 - 1,921.1 = 450.1

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス利用量	t			
バイオマス熱利用量	GJ			
太陽光発電量	kWh			
温泉熱・温泉排熱利用量	GJ			
バイオコークス利用量	t			
太陽熱利用量	GJ			
小水力発電量	kWh			
雪氷融解水熱利用量	GJ			
風力発電量	kWh			
バイオディーゼル燃料使用量	kl			